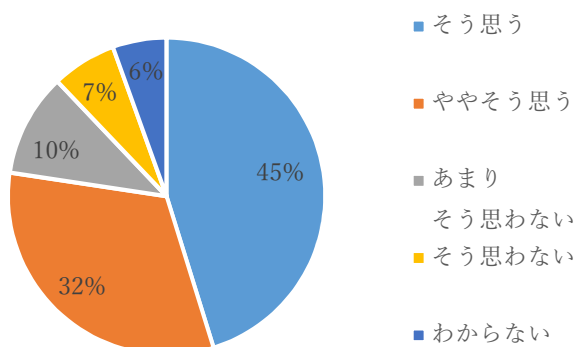


令和5年度 児童アンケート 集計結果と考察

小平市立小平第十三小学校

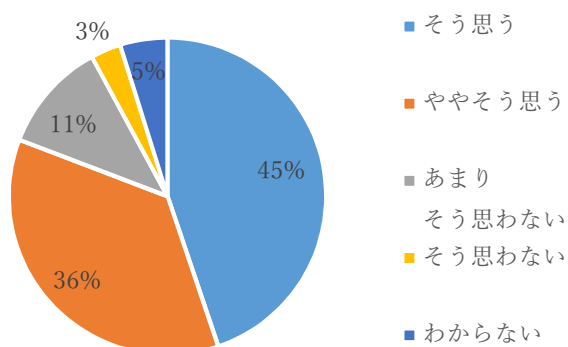
12月に実施した児童アンケートでは、全校児童のうち363名から回答を得ました。
以下、項目ごとに集計結果と考察を記していきます。

1 学校に来るのが楽しみだ



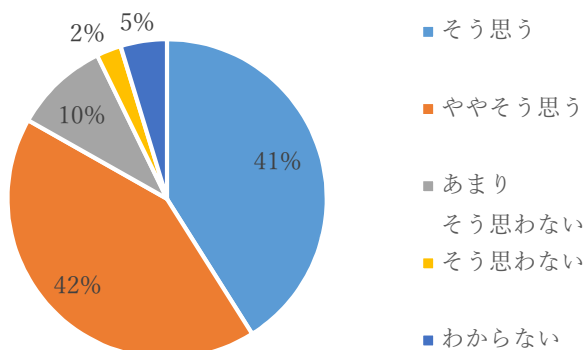
77%の肯定評価からは、学校が子どもたちにとって楽しい場所になっていることがわかります。「そう思わない」「あまりそう思わない」の17%、「わからない」の8%への指導の充実が今後の課題になります。

2 すすんであいさつをしている



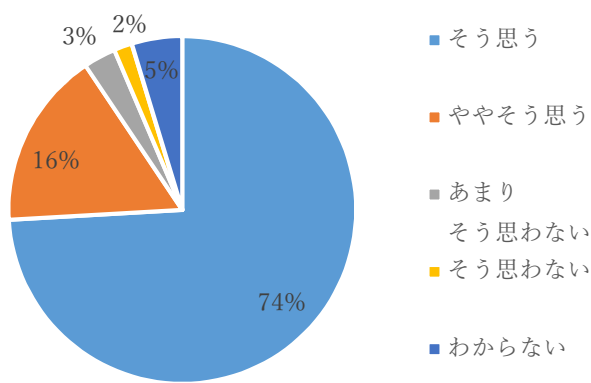
子どもたちの自己評価は81%が肯定評価です。保護者アンケートでも基本的生活習慣の項目は82%が肯定評価でした。あいさつを含めた基本的生活習慣にかかわる指導は今後も継続していきます。

3 授業中のきまり、生活のきまり、学校のきまりを守って生活している



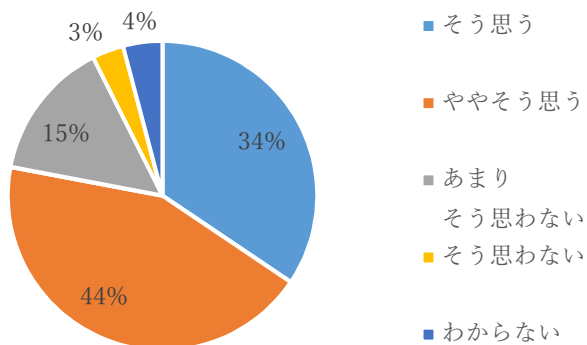
十三小では「13のやくそく スマイル13」を基に、学習や学校でのルールを示して規律にかかわる指導が続いています。この項目では、83%の肯定評価を得ました。今後とも規律ある生活についての指導を、全教育活動の中で進めていきます。

4 友達を大切にしている



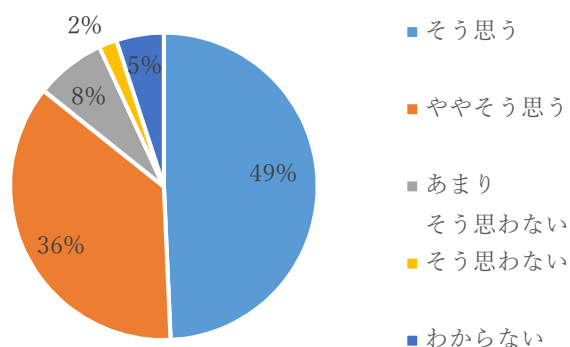
90%の子どもたちが「友達を大切にしている」と回答しています。十三小では様々な人とのかかわりを大切に活動しています。たてわり班による異学年交流、学年ブロックによる遠足や校外学習の他、授業中も学び合い、話し合いを常に取り入れ友達とのかかわりを広げていくことを重視しています。このような活動を今後も積極的に進めていきます。

5 自分で考え、自分から行動している



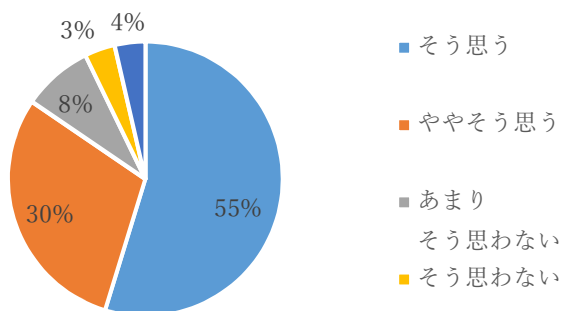
「そう思う」という回答は34%で、「すすんで発言したり、発表したりしている」の項目同様、他の項目よりも低くなっています。「自ら、他と共に」は本校の教育活動で最も大切にしていることの一つです。自ら学ぶ機会を設けたり、個別に助言を続けたりしながら指導にあたっていくことで、この割合を挙げていくことが課題になります。

6 授業は分かりやすく楽しい



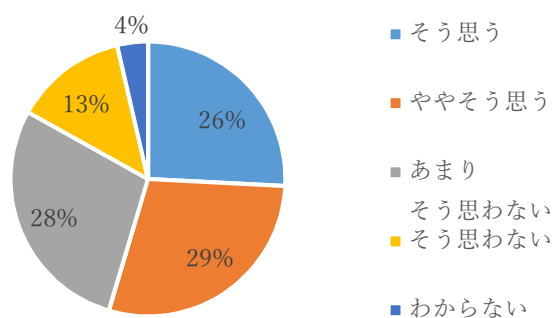
授業については、昨年度同様に85%が肯定回答と高い評価を受けています。子どもたちが、わかりやすく楽しいと感じる授業を日々続けていくことは、学力向上への第一歩です。今後とも学習者用端末（タブレット）の活用や個別指導など、多様な活動により一人一人に合わせた学習を工夫しながら、学力向上につなげる授業づくりを推進していきます。

7 授業中、友達と話し合ったり、一緒に考えたりしている



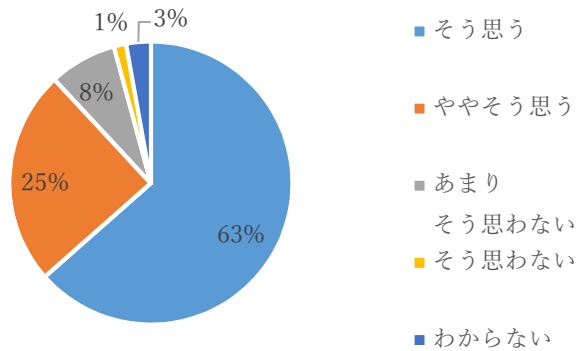
授業中の様子を聴くと、「友達と話し合ったり、一緒に考えたりしている」の項目で85%が肯定評価となり、授業において共に学ぶ機会が確保され、児童も学び合いを日常的に行っていることがうかがえます。

8 すすんで発言したり、発表したりしている



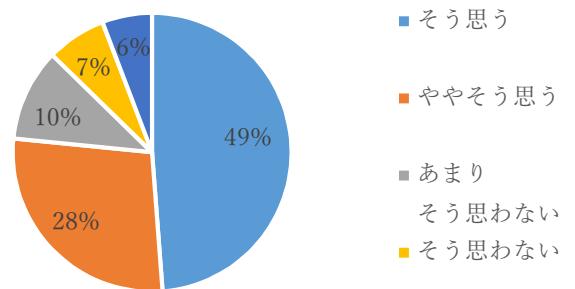
「5 自分で考え 自分から行動している」という項目と同様、「そう思う」の回答率が低い傾向にあります。「あまりそう思わない」が3割近くあった項目は、この質問だけです。授業中に友達とのかかわりはあるものの、自分で考えたり、自分の考えを発信したりという活動には控えめな傾向が見られる結果です。この項目の肯定評価は、昨年度の結果を6ポイント下回りました。自分の考えを発表する・発信するという活動を大切にしながら、主体的に学習に取り組む意識を育てていきます。

9 タブレットは 自分の勉強に役立っている



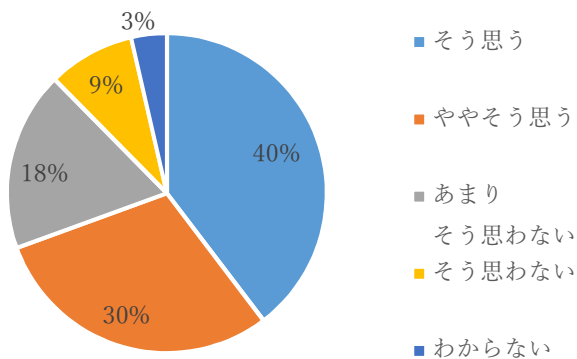
学習者用端末（タブレット）の活用については、88%の児童が「学習に役立っている」と回答するまでになり、昨年度の肯定評価を5ポイント上回りました。家庭での端末活用も進め、学習者用端末は子どもたちにとって学習に不可欠な文房具として定着しました。今後とも学習アプリだけでなく、子どもたち同士の意見交換、プレゼンテーションの作成、調べ学習などに積極的に活用していきます。

10 体力づくりに 自分から取り組んでいる



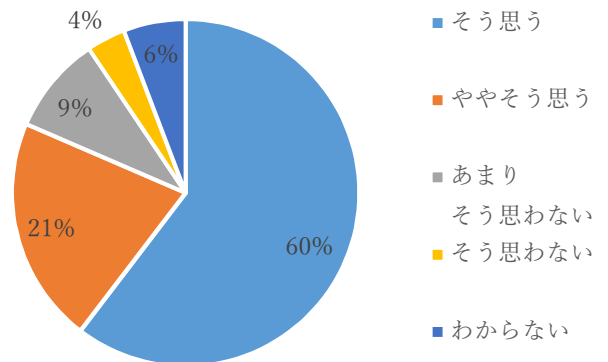
昨年度とほぼ同じ結果になっています。体力テストの結果を見ると、3・4年男子、4・5年生女子と6年生で、50m走など計8種目のほぼ全てで小平市の平均を上回っています。比較的体力・運動能力に優れることと、裸足の休み時間や裸足の運動会の実施とは、無縁ではないと考えています。

11 「早寝 早起き 朝ごはん」を守って生活している



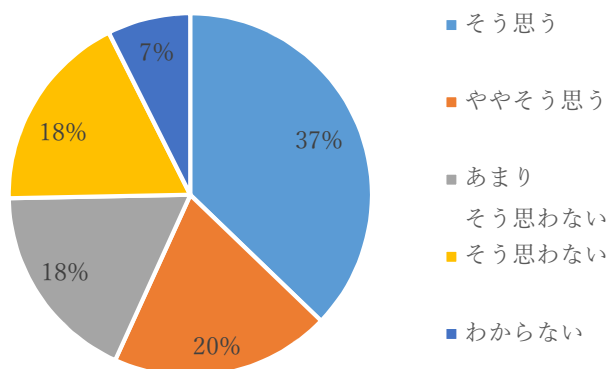
この項目は例年意見が割れています。「あまりそう思わない」「そう思わない」を合わせて3割近くが、早起きできていない、夜は遅くなっているなどを感じているものの、改善や実践が難しくなっているとも読み取れます。分かることとできることが一体化しにくい内容でもあります。今後も保健指導等を通して、子どもたちへの啓発を続けていきます。

12 自分のことを大切にしている



また、「自分のことを大切だと感じている」の肯定評価は81%で、自己肯定感が比較的高いとうかがえる結果になりました。この結果は、昨年度とほとんど変わらず、今後とも一人一人の児童を大切に、丁寧に接しながら自己肯定感をさらに高めていくことが課題です。

13家で毎日（学年×10分）勉強している



この項目は昨年度の調査でも意見が大きく割れています。本校では下学年30分、4年生以上で「学年の数字×10分」という目安を作って家庭学習を進めるようにし、今年度はタブレットも活用しました。36%の児童が「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答していることから、今後の家庭での学習にかかわる働きかけを工夫していく必要があることが分かります。これは一人一人の学力向上にかかわる課題です。